

せいれい看護学会 News Letter

- Contents ◆理事長挨拶 ◆第16回せいれい看護学会学術集会を終えて
◆学会の様子と総会報告

◆理事長挨拶

せいれい看護学会理事長 大石ふみ子

せいれい看護学会員および関係の皆様、常日頃より本学会に格別のご高配を賜り、まことにありがとうございます。

この度、理事長として2期目を務めさせていただくことになりました大石ふみ子です。新理事会ともどもよろしくお願ひ申し上げます。

2025年9月13日に聖隸淡路病院総看護部長である中野由美子学術集会長のもとで行われた第16回学術集会は、非常に質の高いプログラムが展開され、本学会の発展を実感させる、参加者全員にとって満足度の高いものとなりました。中野学術集会長をはじめ企画委員、実行委員の方々、会場をご提供くださいました聖隸浜松病院様、そして参加者の皆様に心より御礼申し上げます。



学術集会の開催と学会誌の発行を2大事業としている本学会ですが、2024年度より学術集会における優秀演題賞の制定、学会誌の冊子とオンラインのハイブリット化等、時代の要請に応じいくつかの新規事業を開始しております。今後も会員の皆様に寄与する学会をめざし、努力してまいります。ご指導、ご協力をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

◆第16回せいれい看護学会学術集会

学術集会会長 中野由美子（聖隸淡路病院 総看護部長）

メインテーマ：「地域」「組織」で横断的に活躍する看護の力

日 時：2025年9月13日（土）9:50～16:30 場 所：総合病院 聖隸浜松病院

☆会長講演「チームを繋ぐ横断的活動」



「2040年問題」を見据え、医療や介護の需要に対する提供者不足を多職種で補い合う必要のある時代に、あらゆる医療現場において診療・治療等に関連する業務から患者の療養生活の支援に至るまで幅広い業務を担い得る「チーム医療のキーパーソン」である看護師に焦点をあてた講演でした。地域や組織でのチーム医療提供の維持・向上のために多職種の間で横断的に活躍する「看護の力」を明らかにして共有し、『やる気・勇気・元気』をもって看護の発展や向上に繋げて欲しいと話されました。

☆教育講演「地域密着型多機能病院の総合診療、そして看護師への期待」

演者 原田英樹（聖隸淡路病院 病院長）



2040年問題を乗り越えるためには、従来の「治す」医療から、患者さんの生活までを包括的に支える「治し、支える」医療への転換が不可欠です。看護師は、医療・福祉・介護・生活支援という幅広い領域を包括的につなぎ、多職種や地域との連携を推進する、「治し、支える」医療の真のリーダーとなることが期待されています。看護師一人ひとりが「やる気・勇気・元気」をもって、その素晴らしい「看護力」を發揮することこそが、地域医療の持続可能性を高め、日本の医療の未来を支える原動力となるであろうと話されました。

☆シンポジウム1 「地域における看護活動と連携」

シンポジスト 森 珠美(聖隸淡路病院 看護管理室 看護部課長)

鷲尾雅永(聖隸訪問看護ステーション淡路所長)

赤堀奈緒子(公益社団法人静岡県看護協会 訪問看護ステーション掛川所長)

座長 櫻井悦子(一般財団法人芙蓉協会 聖隸沼津病院在宅サービス事業次長)

看護小規模多機能型居宅介護事業所せいれい緑町所長)



地域医療構想が進む中、在宅看護の現場は、医療度が増し複雑化しています。そんな中で病院から在宅へ切れ目のない看護を実践する、病院看護師、訪問看護師がそれぞれの立場から、病院での取り組み、連携の実例、利用者を支える看護連携について発表がされました。看護師は、患者、利用者の生活の視点を持って支援することが重要であること。病院や訪問看護ステーションは、地域全体での連携強化が不可欠であることが示され有意義なシンポジウムとなりました。

☆シンポジウム2 「“おひとりさま(ワンオペ)医療安全管理”から“聖隸医療安全チーム”へ～聖隸医療安全推進ネットワーク誕生の軌跡～」

シンポジスト 清水宏恵(聖隸佐倉市民病院 総看護部長)

鈴木美由紀(総合病院 聖隸浜松病院 安全管理室課長 専従安全管理者)

疋野奈央子(袋井市立聖隸袋井市民病院 画像診断室室長 医療安全管理者)

座長/シンポジスト 林 泰広(袋井市立聖隸袋井市民病院 病院長)



「聖隸医療安全推進ネットワーク」は、事業団の関連病院間で、医療安全文化醸成と孤立しがちな医療安全管理者の研鑽目的で誕生しました。各発表では「ワンオペ」状態の課題、事例共有の価値、多職種連携の新たな可能性が示され、ネットワークが精神的支えと成長の場として機能している点が強調されました。総括で、職種を越えた協働とネットワーク拡大が今後の鍵であることを確認しました。医療安全管理者の活動を知る機会にもなり、今後の事業団全体の医療安全の質向上を想像できる有意義なシンポジウムでした。

☆交流集会1 「備えよ、常に！淡路の停電事故からの学び」

企画者 野中裕人(聖隸淡路病院 事務課係長)

中村知明(聖隸福祉事業団 法人本部 前聖隸淡路病院事務長)



聖隸淡路病院で年末年始休暇の夜間に経験した予期せぬ「完全停電事故」の概要や要因、事故からの学びが詳細に報告されました。人的・物的資源が不足していたなかで全職員一丸となって活動し大きな損害に波及することなく乗り越えたことや、導き出された多くの課題を共有しました。また、予防策の構築や事故発生時の対応の手順化等、事前の備えが非常に重要であると提言されました。

☆交流集会2 「何からはじめる？看護DX～今更聞けないDXの話しから取り組み方について～」

企画者 中村典子(総合病院 聖隸浜松病院 看護部次長)

松下鉱輔(聖隸福祉事業団 法人本部 総合情報システム部)



本交流集会では、DXの基本的な情報を提供し、「DXをする」のではなくあるべき姿を実現するために「DXを活用する」視点をもち取り組んでいくための糸口を見つけることを目的とし、約20名の参加者と共に看護DXについて考えていきました。GWでは臨床、教育と立場の違う参加者がそれぞれの立場で「DX推進に向か今やるべきことは？」をテーマに、現状の問題や課題、大切にしなければいけないことの明確化、デジタルの活用による将来像を語り合いました。

☆交流集会 3 「地域を見据えた看護の力をアップ・ステップ・キャリアアップ
～目指そう！！地域を支えるジェネラリスト看護師への道～」

企画者：丸山和真（浜松看護管理研究会/総合病院 聖隸三方原病院 看護課長）

川口里枝（浜松看護管理研究会/総合病院 聖隸三方原病院 看護課長）

ゲストスピーカー：

内山眞理子（浜松市社会福祉事業団 友愛のさと診療所看護師）

木村敏子（聖隸福祉事業団 介護老人福祉施設 いなさ愛光園 生活支援課長）

佐久間佐織（聖隸クリリストファー大学）



これから地域を支える世代の看護職と一緒に、地域を見据えた看護の力を伸ばすためのキャリアについて、意見交換ができる機会にしたいと考え交流集会を開催しました。当日は、ジェネラリストとして地域で活躍する看護職 2 名と、看護基礎教育機関において学部生や診療看護師の教育に携わる教育者 1 名から、それぞれの「キャリア」「仕事内容」「必要な力」「認識している地域の課題」をテーマに語ってもらいました。看護管理者・看護職・学生など約 20 名の参加があり、地域を支えるジェネラリストを目指すために必要な事など、有意義な意見交換の時間を持つことが出来ました。

☆演題発表（口演 15 演題、示説 12 演題）



◆総会

2025 年 9 月 13 日（土）9 時～9 時 30 分、聖隸浜松病院 医局管理棟で開催されました。会員数 284 名（2025 年 9 月 13 日現在）中、出席者 53 名、委任状 80 名、計 133 名でした。会則第 22 条 3 により会員数の 5 分の 1 以上の出席を確認し、総会は成立し、開会が理事長によって宣言されました。

【企画委員会】

第 16 回せいれい看護学会学術集会は、聖隸浜松病院医局管理棟にて開催、参加者は 190 名を超えて大盛会に終えることができました。会長講演、教育講演に続き、2 つのシンポジウム、3 つの交流集会、一般演題は 27 演題となりました。第 15 回学術集会より始まった優秀演題の選出は、一般 27 演題の中から「A 総合病院から B 訪問看護ステーションに出向した特定看護師の特定行為の取り組み」（総合病院 聖隸三方原病院 高山祐輔さん）となりました。優秀演題は研究発表や実践報告で看護の発展に寄与すると認められた演題です。今後多くの皆さまが、ぜひ発表・参加したいと思える学術集会に発展していくことを願っております。

◆学会誌編集委員会

投稿をお待ちしています。

◆広報委員会

第17回せいれい看護学会学術集会の情報は、学会ホームページに掲載します。

是非、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

◆事務局から会費納入のお知らせ

年会費は5000円です。過去の納入がお済みでない方は、本年度分と合わせて納入をお願いします。入会希望の方はせいれい看護学会ホームページをご参照ください。

<https://www.seirei-sons.com/>

◆第17回学術集会のお知らせ

日 時：2026年9月12日（土）

場 所：聖隸クリストファー大学

学術集会長：浜松市リハビリテーション病院 総看護部長 奥田希世子

テー マ：感じて動く看護のあゆみ

演題募集：2026年3月23日(月)～5月18日(月)

応募先：ssns2026@seirei.ac.jp

応募資格：せいれい看護学会会員であること（非会員は演題応募までに入会をお願いします）